第100回薬剤師国試直前 最終チェックポイント

６年制国家試験の４回目となる第100回薬剤師国家試験が２月28日、３月１日に実施される。前回の国試は、全体的にバランスのとれた良問が多い印象で、計算やグラフ、物質の構造、組織の模式図などの薬学教育における「基礎力」を問う問題や医療現場での事例を元にした問題、添付文書の記載を読み解く問題などを通して「考える力」と「問題抽出・解決能力」を問う内容が数多く出題された。総合格率は60.8％と低下し、昨年３月に受けた大きな衝撃を今でも覚えている。第100回国試においても「基礎力」「考える力」「問題抽出・解決能力」の三つの柱での出題であると予想され、易しくなるとは考えにくい。今回は、第100回国試に向けた「最終チェック」として、合格基準や当日の試験時間の確認、合格へのポイントと既出問題から見える第100回の出題傾向を紹介する。

合格基準の確認

～国試の出題区分と出題数を確認～

試験は厚生労働省から出された「薬剤師国家試験出題基準」に沿った内容で出題される。必須問題90問と一般問題255問の合計345問で、試験領域は「物理・化学・生物」「衛生」「薬理」「薬剤」「病態・薬物治療」「法規・制度・倫理」「実務」の７領域。合格基準は、『全問題への配点の65％以上』『必須問題は、全問題への配点の70％以上、かつ各領域の配点の50％以上（足切り）』『一般問題は、各領域の配点の35％以上（足切り）』となっており、受験生は全領域で足切りがなく、225点以上を正解する必要がある（表１参照）

合格基準からみる合格へのポイント

「必須問題」：出題基準に沿った基本的な問題が多く、比較的点数の取りやすい。全体の４分の１を占めるこの必須問題を仮に90％得点すれば、残りの「一般問題」は56.5％得点すればよいことになるが、逆に必須問題の得点率が70％で足切りのボーダーラインであれば、残りは63.5％の正解が必要となる（表２参照）

直前期の時間が少なく、気持ち的にも何をすればよいかわからなくなってしまう中で、必須問題対策の勉強は、基本に立ちかえる意味でも、効率よく得点していく上でも非常に大切である。既出問題の語句を覚えるだけではなく、理解することを心掛け、なるべく多くの問題に触れるようにしたい。

「薬学理論問題」：過去の国家試験や模擬試験の結果から見ても「薬学理論問題」の正答率が最も低い。

一般問題は『薬剤師が直面する一般的課題を解釈・解決するための資質を確認する』ものであり、既出問題の丸暗記ではなかなか点数が取れない。また、必須問題に比べ、文章が長く読解力が必要で、受験生の多くが苦手意識を持つ範囲である。

99回も98回同様、既出問題の再出題が１問もなく、第100回でも再出題の期待はできないと考えられる。ただ毎年出題基準が変わるわけではないため、既出問題でよく問われていることが国家試験に合格するために知っておくべき内容であり、十分に理解をする必要がある。７～８年分の既出問題を解き、その周辺を参考書等で理解をしながら勉強しておきたい。

「薬学実践問題」：具体的な症例や事例を挙げて臨床の現場で薬剤師が直面する問題を抽出・解決するための資質を問う問題で、基礎力・実践力・総合力を確認する問題。

「長期実務実習」の成果を意識した実践的問題や薬剤師から医師への提案などの薬剤師が行うべき事例が出題される。直前期は総合力を養うためこれまで勉強してきた各領域についての関連を意識して問題を解こう。

表１　薬剤師国家試験合格基準

科目	必須問題（各50％）	一般問題（各35％）	薬学理論問題	薬学実践問題	出題数計
物理・化学・生物	15問	45問	30問	15問（複合問題）	60問
衛生	10問	30問	20問	10問（複合問題）	40問
薬理	15問	25問	15問	10問（複合問題）	40問
薬剤	15問	25問	15問	10問（複合問題）	40問
病態・薬物治療	15問	25問	15問	10問（複合問題）	40問
法規・制度・倫理	10問	20問	10問	10問（複合問題）	30問
実務	10問	85問	－	20問＋65問（複合問題）（65％）	95問
出題数計	90問（70％）	255問	105問	150問	345問

※実践問題は、「実務」20問、及びそれぞれの科目と「実務」とを関連させた複合問題130問からなる

試験時間の確認

国家試験当日の試験時間は、（表３）に示すように１日目が９：30～17：45、２日目は９：30～18：00まで。

休憩時間の有効活用：まず、注目するのは休憩時間。１日目には90分と50分、２日目には85分と50分の休憩時間がある。この有効利用をしっかりと考えよう。『この範囲はどうしても苦手で……』や『この公式がいつも抜けてしまうから……』などの悩みは人それぞれ違う。この休憩時間こそが最後にそれらを確認できるチャンスといえる。

表２　必須問題得点率

必須問題90問	必須問題の得点率	一般問題255問	一般問題の得点率
90	100.0	135	52.9
89	98.9	136	53.3
88	97.8	137	53.7
87	96.7	138	54.1
86	95.6	139	54.5
85	94.4	140	54.9
84	93.3	141	55.3
83	92.2	142	55.7
82	91.1	143	56.1
81	90.0	144	56.5
80	88.9	145	56.9
79	87.8	146	57.3
78	86.7	147	57.6
77	85.6	148	58.0
76	84.4	149	58.4
75	83.3	150	58.8
74	82.2	151	59.2
73	81.1	152	59.6
72	80.0	153	60.0
71	78.9	154	60.4
70	77.8	155	60.8
69	76.7	156	61.2
68	75.6	157	61.6
67	74.4	158	62.0
66	73.3	159	62.4
65	72.2	160	62.7
64	71.1	161	63.1
63	70.0	162	63.5

休憩時間からみる合格へのポイント：“何日目の何時間目に何の科目があるのか”を確認し、その時間の前の休憩時間に『最後にココだけは確認する』という見直しのツールを準備しておくようにする。自分の苦手範囲が明確でない、もしくは、どこの範囲を見ればよいかわからない場合は、模擬試験などで自分がよく間違えていた範囲のピックアップから始める。

試験実施中の時間の使い方：試験時間を問題数で割ると、「必須問題」は１問につき１分、「一般問題」は１問につき2.5分で解く時間配分となる。

↗

（調剤薬局）ファーマライズグループは 未来の薬剤師を応援しています！

Pharmarise GROUP

薬剤師育成奨学金制度のご案内

同じ志を持った「未来の薬剤師」を応援する取り組み、それがファーマライズの奨学金制度です。
一緒に頑張る「あなた」からのご連絡をお待ちしています。

[大学在学生の場合]
年間60万円を1～2年間支給
[大学卒業生の場合]
予備校の入学金・授業料全額（上限120万円）を支給

薬剤師国家試験に合格後、当社に就職し、
所定の店舗に貸与期間と同期間就業した場合には
奨学金の返済を全額免除とします。

その他、応募資格や提出書類、募集期間、選考など詳細につきましては、HPをご覧ください。 http://www.pharmarise.com/recruit/scholar/

※ 紹介会社経由の場合は対象外となりますので、直接お問い合わせください。

ファーマライズホールディングス株式会社
〒164-0011 東京都中野区中央一丁目38番1号
TEL：0120-127-510（応募者専用フリーダイヤル）
E-mail：hr-sun@pharmarise.co.jp
URL：http://www.pharmarise.com

ファーマライズグループの店舗はこのマークが目印です。